

下記のいずれかに必ず○をつけて下さい。

2/12・3/12両方参加

2/12のみ参加

3/12のみ参加

住所 岡山市 区

Tel _____

ふりがな _____

氏名 _____

(年齢 歳 / 性別 男・女)

き り と り

瀬戸内海は外海の影響を受けにくい閉鎖性海域で、海ごみがたまりやすい。日本財団（東京）と岡山、広島、香川、愛媛の4県で海ごみ問題に取り組み瀬戸内オーシャンズX推進協議会によると、瀬戸内海では年間約4500トンの海ごみが生じている一方、回収量は同1400トにとどまる。ごみの7割近くは陸域部から排出され、河川や水路を経て海に流出。プラスチック製品も多く含まれ、微細化したマイクロプラスチックによる悪影響も懸念されている。

山陽新聞社は、瀬戸内海の環境改善を喫緊の課題と捉え、瀬戸内オーシャンズX推進協議会などとタイアップ。まずは海ごみ問題を身近に捉えてもらうため、同推進協会の助成を得て、年内を目途に岡山市の旭川河川敷で市民団体とごみ回収イベントを開催する。来春には同市の笹ヶ瀬川でも実施。沿川住民のほか、専門的な回収技術を持つ企業などにも参加を呼びかける。プロジェクトを2021年8月さらに、対策の実効性を高められるため、岡山県南部に張り巡らされた用水路でのごみ回収の在り方を検討する。取り組みは紙面や電子版、SNS（交流サイト）で紹介する。

山陽新聞社は、持続可能な地域づくりを目標とする「吉備の環」プロジェクトを2021年8月再生し、次代につながる方策も共に考える。

瀬戸内海は、海水の富栄養化などに伴う漁獲量の減少や、大気中の二酸化炭素（CO₂）を吸収する「海洋酸性化」も課題となっている。地域の暮らしや産業を支えてきた「恵みの海」を再生し、次代につながる方策も共に考える。

「豊かな瀬戸内、再生

海ごみ削減に参画 山陽新聞社

里海 未来へ

吉備の環アクション

【注意事項】

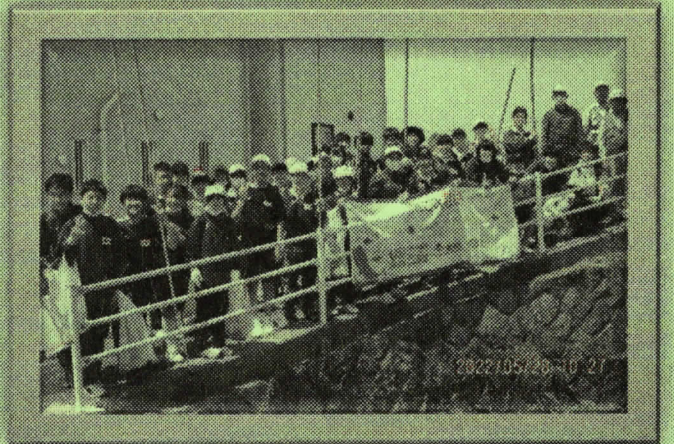
- ◆ご自宅で検温の上お越しく下さい。
発熱等の症状があるときは参加をご遠慮ください。
- ◆今後の状況によっては内容を中止・変更することがあります。
- ◆活動の様子を広報や事業報告のため撮影いたします。
ご都合が悪い方は事前にお知らせください。
- ◆怪我等はイベント保険で対応させていただきます。

山陽新聞社主催

里海 未来へ 吉備の環アクション

⇐ 2022年10月1日（土）山陽新聞朝刊

提供：山陽新聞社



令和4年5月、日本財団主催「海ごみゼロウィーク2022」に参加。西長瀬町内会さんと御南中学校ボランティア32人で用水の清掃をしました。

